

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大豆 子実肥大期を迎え、大豆の登熟が進んでいます。収穫作業に向けて、青立ち株や雑草の抜き取り、ほ場排水の徹底などを進めましょう。
- ◆ 小麦 小麦のは種適期を迎えていますが、降雨により過湿状態のほ場が多く見られます。ほ場の滞水や過湿が解消し、ほ場条件が整ってから、は種を行いましょう。

大豆

1 生育概況

多くのほ場で、子実肥大が順調に進んでいます。葉の黄化はやや遅れていますが、成熟期は概ね平年並みになると考えられます。

2 収穫作業の前に

(1) 台風対策

例年10月は台風の接近が多い時期ですので、今後の気象情報を確認し、排水口の点検、明きょの手直し等の排水対策を事前に実施するとともに、台風通過後は速やかにほ場を確認し、滞水の解消に努めてください。

(2) 雑草、青立ち株の抜き取り

雑草は収穫時に汚損粒の原因となりますので、早めに除草します。

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草のほか、近年拡大傾向にある帰化アサガオ類やアレチウリなど、防除が難しい雑草が発生しているほ場では、雑草が種子をつける前に除草を行ってください。

また、青立ち株も汚損粒の原因となりますので、雑草と同様に抜き取ってください。

(3) コンバインの清掃

収穫作業の前に必ず清掃・点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきます。

また、収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきます。

(4) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備を進めておきます。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期収穫には、成熟期を正確に判断することが重要です。莢を振ってカラカラ音がするようになったら、ほ場内の数カ所で実際に莢をむいて確認し、次の2点を満たした時期を成熟期と判断します。

ア ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表 1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		収穫(適)期間
	早限	晩限	
ナンブシロメ	10 日後	20～25 日後	10～15 日
シュウリュウ	10 日後	20 日後	10 日
リュウホウ	10 日後	20 日後	10 日
リョウユウ	10 日後	20 日後	10 日

※成熟後、「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすく、「シュウリュウ」、「リョウユウ」はやや裂莢しやすいので収穫適期になったら速やかに収穫します。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は 50%以下

茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で茎がもまれて茎汁が発生し、汚損粒の原因となります。このため、青立ちした株は必ず抜き取ってください。茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。

イ 収穫時の子実水分は 18%以下

収穫時の子実水分は 18%以下を目標とし、高くとも 22%以下で収穫します。なお、子実水分が 20%以上の場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下の場合は、裂傷や割れ豆などが多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃までが目安です。茎水分が高いため朝夕は避けてください。

エ 収穫中のコンバイン清掃

土をかみ込んだ時は、ただちに作業を中断し、刈取り部の清掃を行います。土をかみ込んだ場合、汚損粒の原因となることがあります。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、子実水分18%までは通風による予備乾燥（毎時乾減率0.5%程度）を行います。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒（写真 1）は、収穫前に、大豆の生理的な要因で種皮が部分的に裂けて生じるもの（例：莢数不足あるいは刈遅れによる過熟）と、高温通風など乾燥調製時の急激な乾燥によって生じるものに大別されます。

しわ粒は、子実のへその反対側の子葉組織と種皮がギザギザになる「ちりめんじわ」（写真 2）と、種皮が吸湿により亀甲状に隆起する「亀甲じわ」（写真 3）に大別されます。

「ちりめんじわ」は主に、生育後半の地力の減耗や窒素吸収量の低下により発生するため、この時期の栄養状態の改善が対策となります。

「亀甲じわ」は子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因で生じますので、刈遅れを避けることが対策につながります。



写真1 裂皮粒（皮切れ粒） 写真2 しわ粒（ちりめんじわ） 写真3 しわ粒（亀甲じわ）

5 その他

(1) 紫斑病対策

成熟期以降、刈取りが遅れると紫斑粒が増加しますので、刈遅れを避けることが重要です。

小麦

本年は、降雨が続いているため、は種条件が整っていないほ場が多く見られます。過湿状態のほ場に、は種すると、出芽不良となり収量低下の原因となります。滞水や過湿が解消し、ほ場条件が整ってから、は種を行いましょう。

1 は種適期

は種期が遅くなると、年内に確保できる茎数が少なく、穂数不足による減収や、根張りが少ないため、凍上害にあうことが多くなります。

小麦も稲と同様に、主茎の葉齢によって発生する分げつ数が決まっており、越冬前の主茎葉齢は4葉以上、分げつは1～2本を確保することを目標にします。地帯別のは種適期を表2にまとめました。適期を逃さずは種作業を行い、越冬前に生育量を確保してください。

表2 県内の地帯別は種適期

地 帯	は種期(月日)	
	早限	晩限
高標高地	9月15日	9月25日
県北部	9月15日	9月30日
県中部及び沿岸北部	9月20日	10月5日
県南部(沿岸南部)	9月25日	10月20日

ナンプコムギで発生しやすい縞萎縮病は、は種後30～40日間の気温が高く、降水量が多いと翌春の発病程度が高まります。このため、ナンプコムギをやむを得ず連作する場合、被害軽減のため、できるだけは種適期内の遅い時期には種してください。この場合、茎数確保のためは種量を標準の3割増しとします。ただし、適期を過ぎたは種は根張りが劣り、湿害や干ばつ害を受けやすくなりますので注意してください。

2 もしも適期を逃したら・・・は種時期が遅れたときの考え方

- (1) は種適期を守るのが基本ですが、ほ場条件が悪い場合、無理には種しても出芽不良を招きますので、は種作業を見合わせます。
- (2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯のは種晩限から1週間遅れるごとに、は種量を1割ずつ増やし、目標出芽本数を確保できるよう努めます(表3)。

表3 品種別のは種量と目標出芽本数

品種名	は種量 (kg/10a)		目標出芽本数 (本/m ²)
	ドリルまき	全面全層まき	
ナンプコムギ	4～6	5～8	70～110
ゆきちから	6～8	8～10	120～160
銀河のちから	6～8	8～10	120～160
ナンプキラリ	6～8	8～10	110～150

3 基肥

麦類の施肥は、追肥の占める割合が高く、基肥は越冬前の生育量を確保するために施用します。

標準的な施肥量を表4に示していますが、土壤改良目標値を満たしたほ場での施肥管理は、「補給型施肥基準」を適用することができます。補給型施肥

とは、「ほ場からの収穫物による肥料分の持ち出し量」と浸透水による「土壌養分の溶脱量」を施肥によって補給する、という考え方を基に作られた施肥基準です。この施肥基準では、堆肥と化学肥料を区別することなく、含まれる肥料成分の合計で施肥設計しますので、堆肥の利用で肥料費を抑えることも可能です。詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。

表4 麦類の標準的な基肥量（成分 kg/10a）

窒素 (全域)	リン酸		カリ (全域)
	中南部 転換畑	中北部 普通畑	
4～6	10～15	15～20	10～12

※水田から転換して初年目、2年目の「ゆきちから」の基肥は、茎数確保のため窒素 6 kg/10a とする。

4 雑草防除

は種後は、必ず土壌処理剤を散布します。もし、降雨などでは種直後に散布できなかった場合は、小麦の出芽後でも使用できる除草剤がありますので、ほ場が乾いたら早めに散布を行ってください。

5 排水対策

ほ場内の明きよは、は種後に施工することも可能です。小麦を部分的に踏圧・損傷する場合がありますが、排水改善による効果が大きく、収量への影響はほとんどありません。



写真4 ほ場内小明きよの施工例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら．．．
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。